【回　覧】

つばめきた

2026年度　№６
2026年　８月２６日発行
燕市立燕北小学校
学校ホームページ ２次元コード　↑

一人一人に目を向け、充実した２学期に

校長　　小川　泰文

この夏は、熊本での地震をはじめ、各地で水害などの災害が発生しました。被害に遭われた方々に、謹んでお見舞いを申し上げます。また、「酷暑日」という言葉を耳にするほど、暑さも一段と厳しい夏になりました。

さて、いよいよ２学期が始まりました。秋の深まりとともに気温も下がり、物事に落ち着いて取り組める季節へと向かいます。

学習面をはじめ、行事や児童会活動など、１学期にも増して子どもたちが活躍してくれるだろうと、期待が膨らむばかりです。

ところで、「困った子ではなく、困っている子」という表現をご存じでしょうか。

授業中におしゃべりが止まらない子、すぐに席を立ってしまう子など、大人側からするとつい「困った子」と捉えてしまいがちです。これは「大人が（どう対処すればいいのか）困っている」という、大人目線の見方です。

しかし、子どもたちの目線に立ってみるとどうでしょうか。決して「困った子」なのではなく、実は何かに「困っている子」である場合が多いはずです。

では、何に困っているのでしょうか。「先生の話がよく聞き取れない」「周囲の雑音が過敏に響いてしまう」「長い説明を理解するのが難しい」など、一人一人に異なる理由が考えられます。また、自分が何に困っているのかを、うまく周囲に伝えられない子も少なくありません。

大人側の「ひとつのものさし」だけで見てしまうと、その子は「困った子」となり、叱られることも増えてしまいます。

しかし、子どもの目線に立ち、「何に困っているのだろう」と推し量ってあげることで、その子のその後の成長は大きく変わっていきます。

私たち教師は、自分の授業の妨げになるかどうかという視点で子どもを見ていては、教師として成長できません。目の前の子どもが抱える「困り感」に寄り添い、適切な支援について学び続けていく姿勢が何より大切です。

とはいえ、子どもを深く理解することは簡単ではありません。様々な事例にあたっても、目の前の子にぴったりの対応がすぐに見つからないこともあります。

だからこそ、保護者の皆様、お子さんのことで気になることがありましたら、ぜひ学校と一緒に考えていきませんか。一人一人の「困っていること」に目を向け、ともに歩んでいきましょう。

今学期も、どうぞよろしくお願いいたします。

学校評価の進捗状況～１学期の取組を終え～

	目　標	達成率等
学び	①　国・算のワークテストで、８０点以上の児童を８５％以上にする。	国語　８９％ 算数　８４％
	②　自分で立てた家庭学習の目標を達成できた児童を８０％以上にする。	９４％
	③　「素早く丁寧に書くことができた」「自分の考えを分かりやすく伝え、考えを広げたり深めたりすることができた」と評価する児童を８０％以上にする。	書くこと　　９４％ 伝えること　８７％ 考えること　９８％
心	①　学校が楽しいと感じる児童の割合を９０％以上にする。	９５％
	②　みんなの気持ちを考えた言葉づかいや行動ができる児童を９０％以上にする。	９４％
	③　廊下歩行など安心して過ごすためのきまりを守ることができる児童を９０％以上にする。	９６％
健康	①　体育の授業で、体を動かすことが楽しいと思う児童、めあてをもって運動に取り組む児童を８５％以上にする。	楽しむこと　９４％ めあてをもつこと　９９％
	②　２０ｍシャトルランの記録が、春の体力テストでは半分以上の学年が全国平均を超え、秋の体力テストでは、春より記録が伸びる児童を６０％以上にする。	全ての学年の男女で全国平均以上
	③　家族と決めた就寝時刻（週７日中５日以上）を守れる児童を７５％以上にする。	７１％

プール解体工事が進んでいます

１学期から始まったプールの解体工事が進んでいます。この学校だより作成時点で、プールの解体が終了し、屋上の太陽光パネルを設置するための整地が行われています。

太陽光パネルが設置された後は、屋上の防水シートの張り替え工事が行われていきます。

職員の退職・復帰のお知らせ

石附直己非常勤講師が１学期末をもちまして退職となりました。短い期間ではありましたが、お世話になりました。

また、これまで育児休業をいただいていた林優菜教諭が２学期より復帰し、サポートルーム１組の担任になりました。よろしくお願いいたします。